

地域女性活躍推進交付金(寄り添い支援型プラス) 訪問型支援事業(個別事業②)【五島市】

総事業費	30 千円
交付金額	15 千円

地域の実情と課題

五島市は島という特異性から、Uターン、嫁ぎ、転勤族等が多い。その多くが島の暮らしに馴染めず、島外の親族・知人等を休日に訪れリフレッシュして島に戻ってくるという生活を送っていた。しかし新型コロナウイルスの影響により島外に出ることが出来ず、孤独・孤立に陥るケース、また、島外で就労していたが、職を失い帰省するも、職が見つからず、人間関係も上手く構築出来ず引きこもりになるケースがある。地元住民も地元のシガラミ等により、悩みを多々抱えている。

目的・目標

目的:カフェに来店困難な方宅へ訪問し、利用出来る施策の紹介、連携機関等への同行訪問を実施。
目標値:各連携機関への繋ぎ率80%
達成率:57%

事業の特徴

カフェで集約、発掘、洗い出しされたカフェへ来店が困難な方宅等へ訪問。有効利用出来る施策の紹介、連携機関へ繋いだ。

- ### 連携団体
- ネウボラごとう
 - 市こども未来課
 - 民間(幼稚園・保育園等)
 - 医療機関

事業の効果

出張相談会を2回実施し、7件の相談。
医療ケア児を抱える母親宅を3回訪問。
7件の相談は連携機関や対話重視型セミナー事業(個別事業③)へ繋ぎ、社会参加や孤独・孤立からの脱却率は100%となった。

今後の課題

従来の宣伝方法等で不十分な部分を、民間の相談員と協力して、要支援者の洗い出し等を模索する。

訪問型支援事業(個別事業②)



個別訪問

医療的ケアが必要な子を抱える育休中の母宅を3回訪問(個別訪問の他、メールでの相談もあり)。

医療的ケア児の育児において、様々なことに不安が募っていた。

傾聴に重点を置き、悩みや不安を吐き出させることで徐々に落ち着きを取り戻していった。

10月と2月に出張相談を実施。いずれも、市こども未来課主催のイベント会場で、ブースを借りて実施。

子育て、育休期間中の相談者が多く、「子育てについて(登園しづり、発達障害の子)ネウボラや、幼稚園・保育園見学の支援」「育休後の仕事に対する不安を傾聴」等の悩みに寄り添った。

対話重視型セミナー事業(個別事業③)にも繋ぐことで、社会参加を促し、孤独・孤立からの脱却に寄与した。

拠点訪問